

# 令和5年度 教科別授業改善推進プラン

国語科、社会科、算数科、理科、生活科、音楽科、図工科、  
家庭科、体育科、外国語科

## 大田区立入新井第五小学校

昨年度の授業改善推進プランの成果と課題を検証した上で、今年度の  
大田区学習効果測定の結果を分析し、教科ごとに授業改善推進プラン  
を作成いたしました。(変更点:赤字)

# 令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・低学年からの漢字の読み書きの継続的・定期的（小テスト、個別指導等）の取り組みにより、めあてをもって取り組む環境を意識したことで、言語事項で十分な伸びが見られた。
- ・5年生では、活用して問題を解くことに関して、**昨年の正答率が4割強だったのが、6割に上がった。**

### (2) 課題

- ・どの学年も、基礎的な力は7割の正答率があるが、活用して問題を解くことに関しては、正答率が6割程度にとどまっている。基礎的な考え方を応用して問題解決ができるような指導の工夫が必要である。
- ・6年生では、基礎的な力は7割強に上がっているが、2年前の正答率8割には到達していない。知識の定着が図れるよう、継続的・定期的な指導をしていく必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている観点。▽は目標値を下回っている観点。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▽ 区や全国平均より上回っているが、目標値に到達していない。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 目標値も全国平均も上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 目標値は越えているものの、知識・技能は全国平均より若干下回っている。	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度と比べると達成率は下がっている。
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度に比べて知識・技能と思考・判断・表現が校内平均を下回っていた。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度と比べると達成率は大幅に上がっている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・4年生では、「漢字を読む」「漢字を書く」は目標値を大きく上回っているが、「言葉の学習」の中の、主語述語やローマ字は目標値を下回っている。	・4年生では、「文章を書く」は目標値を下回る項目が多くあり、その中でも「2段落構成で書く」については正答率が4割未満だった。	・4年生では、「主体的に学習に取り組む態度」が目標値には到達していないが、全国平均は上回っている。「文章を書く」は目標値を下回る項目が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生では、全体的に目標値を上回っているもののその差はわずかであり、「漢字を書く」に至っては目標値よりも下回っている分野がある。 ・6年生では、全体的に目標値を上回っている。特に漢字の読みや言葉の学習について大きく上回っている。	・5年生では、全体的に目標値を上回っているものの「話し合いの内ようを聞き取る」や「物語や説明文の内ようを読み取る」では、目標値を下回っている項目もあるため、文章の内容を捉える力を育てていきたい。 ・6年生では、昨年度課題であった「内容の読み取り」が全国平均を上回った。学習の定着がうかがえる。	・5年生では、全体的に目標値を上回っているもの、「話し合いの内ようを聞き取る」「文章を書く」の記述の問題においては目標を下回っているため、自分の考えや指定された長さで文章を書く力が弱いと考えられる。 ・6年生では、目標値を大きく上回ることができた。学習の取り組みに対し前向きに捉えられていることがうかがえる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み書きを継続して行い、まなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、定着をはかる。	・伝え合うために必要な事柄を選べるように、交流や発表など表現する場を設ける。 ・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話せるように、聞く姿勢を指導する。	・学校図書館を活用し、本に触れる機会を設ける。読書時間を十分に確保する。 ・問題解決型学習や主体的に取り組める体験型授業を展開する。また、活動を多くすることで意欲を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字や言語学習では、まなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、習熟度別に課題を設定し、学力の定着をはかる。	・書くことでは、内容の中心を明確にし、文章の構成を意識して書く指導を行う。 ・登場人物の気持ちの変化や性格、場面の移り変わりと結	・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。 ・読書時間を確保するために図書時間を計画的に行い、

	び付けて具体的に想像させる。	読むことに慣れ親しませる。 ・ICTを用いて、意見交流の機会を増やし意欲を高める。
--	----------------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・まなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、漢字や文章を読み取る力等基礎学力の定着をはかる。定期的に漢字の小テストを実施し、漢字の定着を図り、個に応じた課題を設けることで定着を確実にする。</p> <p>・連立修飾語と指示語が表すものについて線で結ぶなどして、正しく理解できるようにする。</p>	<p>・読むことでは、説明文の構成が構成図を用いて視覚化できるように指導する。要点、要旨をつかめるよう形式段落の内容の中心を意識させる。</p> <p>・登場人物の心情を、描写を基に考え、読みを深める面白さを味わわせるために、考えを交流させる場を意図的に設ける。</p>	<p>・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。</p> <p>・問題解決型学習やICTを活用した授業作りをして、児童の意欲を高める。</p> <p>・学校図書館の活用や地域図書館を利用し読書時間を確保し、多種多様な図書に触れさせる。</p> <p>・互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる場面を取り入れる。</p>

# 令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ICT を活用して、児童の興味がわくような展開を考え、実施したため、主体的に学習する態度が伸びたといえる。また、主体的に学習することにより、知識・技能や思考・判断・表現も同様に伸びたといえる。
- 年間を通して複数回の研究授業を実施するなど、学級だけでなく、学年や学校全体の社会科における指導技術の向上を行った。また、児童の知識の定着や主体的に取り組む態度の育成を図ったことにより、今年度の高学年の数値が向上した。

### (2) 課題

- 思考・判断・表現力が低いことからそれらを伸ばすために、資料の読み取りをしっかりと行い、その価値付けを行う必要がある。
- 今年度から教科担任制になったため、その効果の検証をしていく必要がある。
- 各学年で正答率の低い単元があるため、補っていく必要がある。
- 問題解決的な学習における授業展開において、興味をもっている児童とそうでない児童との間で差が出てしまうのでその差を埋める具体的な手立てが必要である。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている。▽は目標値を下回っている。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度△
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度と比べると、達成率は上がっている。	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽ 前年度と比べると達成率の変化はない。	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽ 前年度と比べると達成率は下がっている。
第6学年	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度と比べると、達成率は上がっている。	知識・技能▽ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度▽ 前年度と比べると達成率は下がっている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度と比べると達成率は下がっている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4学年は目標値を上回る結果になった。 特に、市役所の役割についての理解をもとに、地図を読み取る問題では、目標値を大きく上回った。 一方、火事が起きた時の出勤の仕組みについて、資料を読み取る問題は正答率が目標値を大きく下回った。	第4学年は目標値を上回る結果になった。 特に、販売の仕事に見られる工夫について、写真をもとに考える問題では目標値を大きく上回った。 一方、年表に着目して、市の交通の移り変わりを捉え、判断する問題は正答率が目標値を下回った。	第4学年は目標値を上回る結果になった。 知識・技能を伴う問題では、目標値と同等か上回った。 思考・判断・表現を伴う問題では、市の人口の変化について読み取り、資料を基に表現する問題のみ目標値を下回り、それ以外の問題は上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5学年は目標値を上回る結果になった。 特に、島根県の一と名称を答える問題では、目標値を大きく上回った。 一方、浄水場の仕組みを問う問題は正答率が目標値を大きく下回った。  第6学年は目標値を上回る結果になった。 特に、情報通信機器の利用について資料を読み取る問題では、目標値を大きく上回った。 一方、公害についての理解を問う問題は正答率が目標値を大きく下回った。	第5学年は目標値を上回る結果になった。 特に、先人たちの苦心や努力が当時の人々の生活の向上に貢献したことについて、資料を読み取る問題では、目標値を大きく上回った。 一方、広島県の人口について、地形の様子と関連付けて考え、表現する問題は正答率が目標値を下回った。  第6学年は目標値を上回る結果になった。 特に、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の攻勢について、地図をもとに考え、表現する問題では、目標値を大きく上回った。 一方、栽培漁業の利点について、資料をもとに考える問題は正答率が目標値を下回った。	第5学年は目標値を上回る結果になった。 知識・技能を伴う問題では、目標値を大きく上回った。 思考・判断・表現を伴う問題では、広島県の人口について、地形の様子と関連付けて考え、表現する問題のみ目標値を下回り、それ以外の問題は上回った。  第6学年は目標値を上回る結果になった。 知識・技能を伴う問題では、目標値と同等か上回った。 思考・判断・表現を伴う問題では、自然災害は告訴の自然条件などに関連して発生していることについて資料をもとに考える問題のみ目標値を下回り、それ以外の問題は同等か上回った。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第3学年では、内容(1)の学習と内容(2)(3)(4)との関連を意識し、意図的に内容(1)の単元をデザインすることで、大田区を中心とした社会生活を総合的に理解できるようにする。</p> <p>第4学年では、東京都をよりよくしようとする人々の工夫や努力に着目し、各内容で問うことで、東京都を中心とした社会生活を総合的に理解できるようにする。</p>	<p>社会的事象について、比較・分類・総合・関連付けて、自分の言葉で説明する機会を「調べる」段階や「まとめる」段階で設けることにより、社会的事象の意味を考えられるようにする。</p> <p>考えたことや選択・判断したことを文章で記述したり図表などに表したことを使って説明したりして表現する力を養うために、「まとめる」段階の成果物を工夫したり、「調べる」段階における自らの考えをまとめる時間を多くとるなど、単元全体を工夫する。</p>	<p>児童の「なぜだろう」、「調べたい」という意欲を沸かせるような学習問題を立てたり、児童にとって見通しをもって調べられる学習計画を立てられたりできるように、「導入」段階を工夫する。</p> <p>地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うために、地域学習を行い、それに対する確かな理解を得ることを前提に、授業時間外において、第3学年であれば、大田区、第4学年であれば、東京都に関するトピックを紹介したり、児童同士で紹介し合ったりする機会を設ける。</p>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第5学年では、我が国の国土と産業という大きく2つのまとまりがあるため、国土の様子をしっかりと捉えさせたうえで、産業の学習を行うことで、輸送や各地域でさかんな産業を取り上げる際、国土の様子と関連付けることにより、我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解できるようにする。</p> <p>第6学年では、我が国の政治の考え方と仕組みや働き</p>	<p>社会的事象について、中学年の見方・考え方である、比較・分類・総合・関連付けることに加え、複数の立場や意見を踏まえて、自分の言葉で説明する機会を「調べる」段階や「まとめる」段階で設けることにより、社会的事象の意味を考えられるようにする。</p> <p>考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立</p>	<p>中学年の社会科の学習を想起させることにより、学習する範囲が広範になっていることに気付かせることにより、中学年で用いた視点で見通しをもって学習を進められるようにする。</p> <p>児童の「なぜだろう」、「調べたい」という意欲を沸かせるような学習問題を立てたり、児童にとって見通しをもって調べられる学習計画を立てられたりできるように、</p>

<p>を学習した後、歴史を学ぶ意味について考えるための歴史単元における導入を行うことで、政治単元で得られた3つの視点（政治・文化・外国）に沿って歴史学習を進めることにより、先人の業績や優れた文化遺産のもとに現代の我が国の政治の考え方や仕組みや働きに生かされていることに気付かせ、我が国の政治と先人についての確かな理解を促せるようにする。また、この理解をもとにすることで、国際社会における我が国の役割や我が国と関係の深い国の生活についても理解を深められるようにする。</p>	<p>場や根拠を明確にして議論したりする力を養うために、「いかす」段階で教材を工夫したり、「調べる」段階を工夫し、児童の興味のある事柄や立場から調べられるような展開になるように、単元全体を工夫する。</p>	<p>「導入」段階を工夫する。</p>
--	---	---------------------



## 令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・算数的活動を多く取り入れたり、展開グループの実態に応じた指導の工夫を行ったり、導入で自由に発言をさせたりしたことで、児童の関心意欲を高めることができた。
- ・自力解決することに苦手意識をもつ児童のため、問題解決型の学習を取り入れた。ノートや画用紙に自分の考えを書いたり友達と話し合ったりする時間を増やした結果、自信をもてるようになった。
- ・低学年のうちから文章問題を図式化する活動を行ってきた成果が、上学年の児童の様子からうかがえる。

#### (2) 課題

- ・苦手と思われる分野の問題練習に多く取り組ませ、理解度を高めることはできたが、自分の言葉で説明することについては、もう少し時間をかける必要がある。
- ・既習内容の復習にプリントなどで取り組む時間をスパイラルに取ることを続けていく。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている。▽は目標値を下回っている。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	/	/
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	関心・意欲・態度△ 数学的な考え方△ 技能△ 知識・理解△ (第4学年時)

(2) 分析 (観点別) \*正答率について

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2けた×2けた=4けたの計算ができる」については大きく上回っている。</li> <li>・「全体の重さから入れ物の重さをひいて、米の重さを求めることができる」については上回っている。</li> <li>・「ボールが2こ入った箱の辺の長さから、ボールの半径を求めることができる」については下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明している。」については、大きく上回っている。</li> <li>・「<math>28 \times 7</math>の工夫した計算のしかたを説明している。」については上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1分=60秒の関係を理解している。」については大きく上回っている。</li> <li>・「棒グラフの1めもりの大きさがわかる。」については上回っている。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を理解している。」については大きく下回っている。</li> <li>・6年生「整数÷整数の商を分数で表すことができる。」については大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「数直線上に示された分数の読み取り方を理解している。」については下回っている。</li> <li>・6年生「小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえている。」については下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「ひし形の作図ができる」については大きく下回っている。</li> <li>・6年生「図に示された四角形の内角の和の求め方を説明している」については大きく下回っている。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>・ステップアップ学習により、学習内容の定着を図る。</li> <li>・「たし算」「ひき算」については、計算方法が身に付くようにプリントやタブレット等を使用し復習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをノートに記述させ、友達に説明する場面を積極的に設ける。</li> <li>・学習の中で考える時間を十分に確保し、多様な考えがあることを知る機会をもつ。</li> <li>・図から式を導いたり、式から図を考えたりする機会を設定する。</li> <li>・「水のかさ」「長さ」については、実際に測る活動やmL・dL・Lますを作る活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導を丁寧に行い、苦手意識のある児童に自信をつけさせる。</li> <li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>・文章から問題の意図を読み取り絵や図に表す。また、必要な情報を得て問題を解くよう指導方法を工夫する。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>・ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li> <li>・「重さ」「円」等、普段の生活であまり使わない単元に対しては、復習の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年のうちから、文章題の分かっていることや問われていることに下線を引いたり、図式化したりする活動を通して、問題をイメージできるようにしていく。</li> <li>・学習の中で考える時間を十分に確保し、多様な考えがあることを知る機会をもつ。</li> <li>・問題解決型の授業を意識し、自分の考えをノートに記述させてから発表するなど、表現する場を多く作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>・「グラフ」「時間の換算」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li> <li>・文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li> <li>・展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>・ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li> <li>・「角度」「分数」等、普段の生活であまり使わない単元に対しては、復習の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の授業を意識し、自分の考えをノートに記述させてから発表するなど、表現する場を多く作る。さらに、ノート以外に画用紙に自分の考えを書かせ、それを黒板に掲示したものを友達同士で自由に見合ったりする活動を取り入れる。</li> <li>・答えの見積もりをしてから計算させたり、見積もった値と照らし合わせて振り返らせたりする習慣をつける。特に小数の計算。</li> <li>・グラフの学習においては、他教科と関連したり、身近なテーマに沿ってグラフ化したりする活動を取り入れるなど、丁寧に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>・「割合」「小数」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li> <li>・文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li> <li>・展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li> </ul>

# 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・学習の中で、「問題」→「予想」→「計画」→「方法」→「結果」→「考察」→「結論」→「まとめ」の一連した学習過程を繰り返し指導し、自己の予想を確かめるための観察・実験をすることで、思考を深めていくことができた。
- ・自然事象などの実感にくい内容に関しては、ICT教材（デジタル教科書・動画視聴）などを活用し、一人ひとりが実際に追体験することで、実感を伴った理解をさせることができた。
- ・授業の導入で教師が実験を行って視覚的に事象をとらえられるように工夫したり、観察・実験する際の観点を明確にしたりして児童が問題意識をもって学習に取り組めるようにした。問題解決型の学習方法をとることで、子どもが学習の意図を感じて意欲的に学習に参加するようになった。

### (2) 課題

- ・予想をたてる力、結果から考察をする力に課題を感じる。
- ・器具の使い方が定着しておらず、引き続き丁寧な指導が必要である。
- ・一度学習した内容も、時間がたつと忘れてしまうことが課題である。そのため、実験、観察学習のまとめや、応用としてもICT機器を活用していくことで、正しい知識を定着させていく必要がある。
- ・なかなか考察や感想が書けず手が止まってしまう子どもが目立つ。そのため、単元の「問題」を繰り返し確認することで、何のために、どうしてその実験・観察をしているのか意識させ、ねらいを一貫させて学習に取り組めるようにする。
- ・今までの経験や学習から予想したり考察したりすることに課題があるため、導入時などに身の回りの生活と比べて考えることができるように写真や動画などを活用して教材を工夫する。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている観点。▽は目標値を下回っている観点。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽ 全てにおいて前年度の数値を上回っている。	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽	
第5学年	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△ 知識・技能のみ前年度の数値を下回っている。	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽ (第4学年時)
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に取り組む態度△ 思考・判断・表現のみ前年度の数値を下回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▽ (第5学年時)

## (2) 分析 (観点別)

### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・4年生は、目標値をわずかに下回る結果となった。おおむね基礎基本は理解できているが、「虫めがねの性質や正しい使い方」についての理解に課題がある。</p>	<p>・4年生は、目標値を上回る結果となった。「こん虫の育ち方」「太陽と地面のようす」「物の重さ」「じしゃくのせいしつ」のうち、特に記述問題に課題が見られる。</p>	<p>・4年生は、目標値を下回る結果となった。「身近な自然のかんさつ」の中で、虫めがねの使い方や、観察記録に書くべき内容について課題に感じている。</p>

### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・5年生は、目標値を大きく下回る結果となった。特に目標値を大きく下回ったのは「物のあたたまり方」の空気のあたたまり方についての問題である。</p> <p>・6年生は目標値を上回る結果となった。「ふりこのきまり」の時間の求め方と「けんび鏡の使い方」全般に課題がある。</p>	<p>・5年生は、目標値を上回る結果となった。特に「雨水のゆくえと地面のようす」は目標値を大きく上回る結果となった。一方で「水のすがた」の記述問題は正答率が低く課題であることが分かる。</p> <p>・6年生は目標値を上回る結果となった。「物のとけ方」や「植物の発芽と成長」の問題の正答率が低く、課題であることが分かる。</p>	<p>・5年生は、目標値を上回る結果となった。ナナホシテントウとオオカマキリの様子についての理解に課題が見られる。</p> <p>・6年生は、目標値を上回る結果となった。全体的に正答率が高く、よくできている傾向にある。</p>

## 3 授業改善のポイント (観点別)

### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・定期的に既習の内容についての振り返りをまなびポケットのドリルパークを使用して行い、正しい知識の定着を図る。また、実験を通して、体験的な学びの機会を多く取り入れていく。</p>	<p>・実験や観察から分かったことを考察として書く力をつけさせるために、考察の書き方を型として提示する。また、書いた考察について、スクールタクトやジャムボードなどを用いて、周りと比較する活動を行う。</p>	<p>・一人ひとりが実験や観察に関われるように、場の設定や実験方法の工夫を行う。また、学習したことを生かせるように、ドリルパークを使用して練習、応用問題に取り組むようにする。</p>

### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・器具の使い方については使用する度に、デジタル教科書で大きく資料を見せたり動画資料を見せたりして振り返りを行いながら定着を図る。</p> <p>・今までの学習の定着を図るために、ドリルパークを用いて復習を行う。</p>	<p>・考察の時間を多めに設定することで、自分の考えをしっかりと表現できるようにする。また、考察についてスクールタクトやジャムボードを用いて友達と話し合っって意見を共有する場面を設定し学びを深める。</p>	<p>・実験・観察に意欲的に取り組むだけでなく、実験に至るまでの予想や、またその後の考察についても真剣に取り組めるようにする。そのために、身の回りの生活の中から問題を作り意欲的に取り組むことができるようにする。</p>

# 令和5年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(成果)

- ・ 学習のまとめ等の表現方法として ICT を活用したり、他教科と関連付けたりしながら学習の計画をしたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ 自然と関わる活動を取り入れることで、身の回りの生活につながる活動に楽しんで取り組んだ。でいる。

(課題)

- ・ 知的な気付きにつながる活動になるよう、発問や導入の工夫を行う必要がある。また、気付いたことを表現する方法に多様性をもたせ、自由に表せるようにする。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ なかよし広場や観察池など校内の季節を感じられるよう、定期的に観察する時間を設けている。これにより、季節の変化や植物や生き物に触れる機会を確保している。</li> <li>◆ なかよし広場で野菜を育てる活動、にこにこ大作戦で家族の手伝いをする活動、まちたんけんて地域のお店に行く活動など、身近な人々と関わりながら活動する場を積極的に設けてきているが、ここ数年縮小したり校外学習を実施したりすることができないことも多かった。</li> <li>◆ 一つ一つの活動の関連性や積み重ねを実感せずに取り組んでいる様子が見られる。そのため、児童が自分の力で学習の課題や問題の解決に取り組むことを通して、知的な気付きを促していくとともに、興味関心をもって主体的に取り組む意欲に繋げていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 校内だけでなく、身の回りの公園等（平和の森公園）について知る機会を増やし、季節の移り変わりを感じられるようにする。そのために、<b>学習に合わせて観察できるような見通しをもった指導計画を作る。</b></li> <li>◆ 他学年や保護者ボランティアの方、地域の方・商店街の方との関わりから「気付き」を得ることができるようにする。特に今年度は、<b>町探検にてお店へ直接インタビューができるかどうか検討し、可能な限り現地へ出向くことができるようにする。</b></li> <li>◆ <b>育てた作物をどのように食べられるか、などを調べたり家の人と考えたりするなど体験をさらに深められる学習計画を工夫する。</b></li> <li>◆ 自分たちで工夫して遊びや活動を楽しくしようとする考えを引き出す。</li> <li>◆ 振り返りや学習課題の解決過程の中で、児童の問いや疑問を引き出す発問をし、児童の「もっとやってみたい」「もっと知りたい」「もっとかかわりたい」という<b>気持ちや、気付きの質を高めるために、どのような体験や活動が適切か吟味する。</b></li> <li>◆ 気付いたことを様々な形で表現でき</li> </ul>

		<p>るように ICT を活用する機会を増やす。調べる方法の選択肢の中にタブレットを入れることで、自分の課題解決をよりしやすくしていく。さらに、教員が児童の気づきを価値付けるとともに、学級で共有することで深め合えるようにする。</p>
--	--	---



# 令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・楽器やパートを自分達で考え、グループ合奏に取り組むことができた。(高学年)
- ・常時活動でドの位置や音の高さについて少しずつ理解が深まってきた。
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動ができるようになり、少しずつ技能が高まってきた。
- ・高学年の技能面での差が大きい。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 歌詞の表す情景や気持ちを考え、声の出し方や表現の仕方を工夫しようとしている。強弱の違いやリズム、旋律の反復を聴き取ることはできたが、それを音楽づくりに生かすまでには至っていない。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多くの児童が正しい音程で歌ったり、いろいろな楽器を演奏したりすることができる。鍵盤ハーモニカの演奏ではドの位置が分からなかったり、音の高さの理解ができていなかったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リズムを反復したり強弱の変化を表現したりする楽しさを味わわせられるような活動(ドラムサークルなど)を使って音楽のしくみを体で感じ取り、少しずつそれを活用できるような活動を取り入れる。</li> <li>◆ 静かに集中して演奏する場面、少人数で他の楽器と合わせて演奏する場面をつくる。</li> <li>◆ 常時活動にドの位置が分かるような活動をしたり、視覚的に音の高さを確認できるものを貼ったりしておく。</li> </ul>
中	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の響きや特徴を感じ取り、それを基に音楽の表現を考えて工夫したり、楽しさを感じながら聴いたりしている。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 旋律の重なりに気づき、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽曲に合った身体表現やボディパーカッションなどを取り入れながら鑑賞するなど体で感じる授業を工夫する。</li> <li>◆ リコーダーの導入時に運指、姿勢、息の強さを確認し、一人ひとり演奏する機会を設ける。また、リコーダーのデジタル教材も活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。</li> </ul>
高	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 声や楽器の重なりに気づき、美しさや良さを感じ取ることができる。曲想にあった楽器の表現や、どのように演奏したいかについて考えたり、思いをもったりすることが課題である。</li> <li>◆ 楽器の奏法を工夫することで表現が変わることを理解しているが、それを生かして演奏することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の強弱やマレットによる音色の違いなどに興味をもたせ、表現の幅を広げられるよう指導する。</li> <li>◆ 歌や器楽合奏を録音し、客観的に聴くことによってどんなふうに演奏したいか思いをもてるような場面を設定する。思いをもって演奏したものに対する教師の価値づけをしっかりとっていく。</li> </ul>



共通	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 打楽器だけの音楽や簡単な作曲などの音楽づくり、二部合唱、器楽演奏、全てにおいて技能の差が大きい。</li> </ul> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 2～6年生まで、それぞれの発達段階に応じて意欲的に音楽活動に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器に触れる機会を与え、各楽器の基礎的な奏法を覚えられるようにする。そして合奏における主旋律や副旋律の役割を考えさせ、バランスを考え、楽曲にふさわしい演奏をできるようにする。</li> <li>◆ 今後も児童が意欲的に音楽活動できる環境づくりや発表の場を作り、目標をもって取り組めるようにしていく。ICTの活用も行う。</li> </ul>

# 令和5年度 図工科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・材料、道具、表現の領域を考慮しながら年間の学習を進めた。また、一人一人の表現を十分に発揮できる題材を工夫した。今年度は道具の扱いについて、安全正確に技能を習得できるよう題材配置や指導法を工夫する。
- ・様々な表現方法を工夫したり、根気よく作品作りに取り組んだりする姿勢に課題があり、見通しをもって授業時間内に完成させることができない児童が見受けられる点が課題である。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感じたことや想像したことから表したいことを見つけて表すことができるが、自分の考えに自信をもてず、自分なりの表現方法を考えることに課題がある児童もいる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい材料や用具に興味を持って、工夫しながら表そうとしているが、使用方法や表現方法が一度では理解できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児童が手や体全体を使って見たり触ったり試したりできるよう支援し、自主的に活動に向かうようにする。グループ活動をしたり、お互いの作品を鑑賞したりすることで、それぞれの表し方の面白さに気付き、違いの良さに気付くことができる環境を設定する。</li> <li>◆ 自由な発想を促すため、教師見本や表現・材料のパターンをいくつか紹介し、発想が広がるように材料を用意する。</li> </ul>
中	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマや描画材、材料や道具などから、思いをもったり自分らしい表現や計画を思いついたりして活動を進めることができる。描き足したりつくり変えたりしながら構想を深めている姿が見られる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具の使い方に慣れ安全に使用しているが、自分の表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かして使うところまで至っていない</li> </ul> <p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な材料や道具、表現方法に接し、試行錯誤できる範囲を広げる必要がある。安易に終着を決めず、じっくりと自分の表現に向き合っていく姿勢を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。</li> <li>◆ 自分の思いに合わせて材料や用具を扱う楽しさを味わうとともに、その経験が深まるような指導を工夫する。</li> <li>◆ 児童一人一人の造形的な経験を生かせるような指導を工夫し、自分らしい表現の工夫を追求できる環境づくりに努める。</li> </ul>
高	<p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具・材料の特徴を生かして使うことができる。以前に学習した用具・材料の扱い方に課題のある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付いたり、そこから発想を広げたりしながら自分で選択して表現できるような指導をする。</li> </ul>
共通	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形活動を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多いが、さらに工夫したり、根気よく取り組んだりすることに課題がある児童がいる。〈学びに向かう力, 人間性〉</li> <li>・ 自分の作品や友達の作品の面白さやよさに気付くことができるが、言語化していくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児童が興味関心を持って取り組めるような授業を、学年の実態に応じて工夫して行っていく。</li> <li>◆ 一人一人が積極的に取り組めるよう授業環境を整える。自分らしい活動を充実させることの大切さを繰り返し伝えていく。目標を達成する手段として、ICT機器の活用していく。</li> </ul>



# 令和5年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

・調理実習を行うことができなかったため、食生活に関する知識の習得が甘かったように感じた。デジタル教材で見せるだけでなく、実際に行うことの大切さを感じたと共に、今年度は工夫した形で実技を行っていきべきである。

・裁縫には十分に時間をかけることができたため、技能の習得に繋がった。個人によって差が出るものなので、補習などを活用しながら基礎基本の力を全体につけていきたい。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
高学年	<p>【食生活について】</p> <p>☆包丁の使い方、分量の感覚などに経験による技能の差がある。しかし、調理実習に対する意欲は高く、班で協力しながら調理をしたり安全に活動したりすることができる。</p> <p>【衣生活・住生活について】</p> <p>☆「玉結び」、「玉止め」といった技能の習得に差がある。ミシンの取り扱いでは、下糸や上糸の準備では、教えたことを何度も練習することで習得できた児童が多かった。また、ミシン縫いの技能の定着が見られない児童がいた。</p> <p>☆ 布を用いた物の製作に対する関心は高いが、構想したものを作成するための具体的な方法が想像できていないことがある。製作には意欲的に取り組んでいた。</p> <p>【家族や家庭について】</p> <p>☆ 普段から家庭での自分の役割がある児童が多く、家族の一員としての自分の役割を感じている。</p> <p>☆ 家庭科の技能は、家庭での生活経験が大きく関わるため、個人差が大きい。</p>	<p>◆ 家庭と連携し、座学で学習したことを家庭で宿題という形で実習し、感想やレポートをまとめるなど、児童が実習を体験できるようにする。</p> <p>◆ 調理実習で学んだことを、家でも実践できるようにする。限られた授業時数の中で、実習の機会を増やしたり、経験できる回数を増やしたりすることで、技能の差を補う。</p> <p>◆ 裁縫等の指導では、電子黒板を効果的に活用し、拡大投影機で教員の手元を写して動きを指導したり、インターネット上の家庭科に関する動画を投影し、操作のポイントを説明しながら指導したりする。また、練習用の布に繰り返し時間をかけて練習することで、習得できるようにする。</p> <p>◆ 構想力は、製作物の縫い方、適した布、裁ち方などの視点を与え、観察の時間を十分にとる。また、必要に応じて示し、イメージできるようにする。実習の際は一つ一つの段階を丁寧に指導する。</p> <p>◆ 家族の中での自分の役割を考える場面をつくる。家の手伝いの活動では、ふり返りカードへの記入と保護者からのコメントによって評価をしていく。</p> <p>◆ 教員が十分に時間をもって段階的な指導を行ったり、GoogleのJamboardを活用した児童同士で教え合いをする場面を作ったりすることで全員が基本の技術を身に付けられるようにする。</p> <p>◆ 家庭と連携し、長期休みなどを利用し、料理や裁縫の課題を出すようにする。</p>





# 令和5年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・跳び箱、マット運動の学習で、技カードを活用したことで意欲的に技に取り組む児童が増えた。(中・高学年)
- ・ICTの活用により、自分の動きを見ることで意識するポイントを明確にできる児童が増えた。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 持久力が低下している。長座体前屈、上体起こし、握力の数値が都や全国と比べて下回っている傾向にある。(令和4年度体力テストの結果より)</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄棒での腕支持感覚が乏しく、前まわりを怖がる子もいる。</li> <li>◆ 投の運動・マット運動の技能が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高学年では、体力測定の結果から自分の体力を高める活動に取り組みさせる。</li> <li>◆ 投げる、跳ぶ、柔軟性を高める等の取り組みを、休み時間で適宜行い、体力向上を目指す。 持久走旬間を実施する。</li> <li>◆ 軟性を高める運動を各担任が理解し、授業に取り入れるようにする。</li> </ul>
中	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄棒の技能が低く、雲梯も足をつかずに渡りきることができる児童が少ない。</li> <li>◆ 泳力が全体的に低い。(コロナ禍の影響で低学年の頃に水泳をほぼ行えていない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 固定遊具を使った遊びを多く取り入れるだけでなく、マットや跳び箱を使った運動遊びも意図的に取り入れる。</li> <li>◆ 投げ方を指導し、様々なものをなげる活動を通じて技能向上に努める。</li> <li>◆ 鉄棒運動に意欲的に取り組む指導法の工夫と日常的に取り組む工夫をする。</li> <li>◆ 楽しみながら固定遊具を使った運動を行えるようにする。</li> </ul>
高	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄棒やマット運動の経験が少なく、身につけているべき技能が身につけていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 器械運動はそれぞれの技のポイントを理解させ、学習カードを活用しめあてをもって取り組みさせる。</li> <li>◆ ICTを活用して自分の運動の様子を見られるようにしたりする等の指導法を工夫する。</li> <li>◆ 器械、器具を使つての運動遊びや器械運動では、主運動に入る前の運動感覚づくりの時間を帯で設定する。</li> </ul>
共通	<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 運動に関する意欲は高く、楽しんで取り組んでいる。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コロナ禍の影響で、泳力が身に付いていない児童が多い。(主に中学年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 固定施設を使った運動が休み時間の遊びに発展するようにゲーム性をもたせたものにするなど、工夫する。</li> <li>◆ 水泳の指導時間を増やし、課題別練習の時間を多く設定する。</li> <li>◆ 教員間で水泳指導の情報を共有し、指導方法や内容に差が生じないようにする。</li> </ul>



# 令和5年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・毎時間、挨拶・月日・曜日・天気・感情を確認する活動を設定することで、日常会話で使用する基本的な表現を習得することができた。
- ・チャンツやペア学習など話す活動を意図的に多く設定したことで、英語を使ってコミュニケーションを取ることに抵抗を感じる児童が少なくなった。

### (2) 課題

- ・音声を聞き、活字体を正しく書く活動に課題が残る。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	目標値より上回っているが、区の平均正答率や都の平均正答率より下回っている。	目標値より上回っており、区の平均正答率もわずかに上回っている。	目標値よりわずかに上回っている。

### (2) 分析(観点別)

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を上回っているが、区平均正答率・全国平均正答率は下回る結果となっている。</li> <li>・音声を聞き、活字体の大文字・小文字を正しく書く問題が目標値を下回っており、課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を上回っているが、区平均正答率・全国平均正答率は下回る結果となっている。</li> <li>・英文の完成(地図を見ながら目的地までの道順を正しく書く等)が目標値を下回っており、課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値・区平均正答率・全国平均正答率よりも上回る結果となっている。</li> <li>・英作文が無回答の児童がおり、課題が見られる。技能と意欲の両面を高めしていく必要がある。</li> </ul>



### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ等を使用して、アルファベットの音声と活字を確実に一致させるようにする。</li> <li>・国語科のローマ字指導と合わせて、アルファベットの大文字・小文字を正しく読み書きできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、挨拶・月日・曜日・天気・感情を確認し、日常会話で使用する基本的な表現に慣れ親しませる。</li> <li>・ペアでのやり取りを単元中に1回以上取り入れ、外国語でやり取りすることに慣れ親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT との挨拶やゲーム、チャンツ等を使用して、毎時間全員が外国語を声に出す習慣をつくる。</li> <li>・休み時間や下校時を活用し、授業時間外にも ALT と接し、外国語で伝え合う力の素地を養う。</li> </ul>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取ったことをメモする活動等を取り入れ、音声を聞いて単語を正しいスペルで書けるよう指導を行い、知識の定着を図る。</li> <li>・学習した単語を発音するだけでなく、書く活動を意図的に設定し、スペルを正しく身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の“Panorama”を活用し、文(音声)と場面(具体物)を一致させるよう、話を聞きながら絵を指差す活動を取り入れる。</li> <li>・外国語で円滑にやり取りできるように、ペアでのやり取りを毎時間取り入れる。</li> <li>・習得した単語を使って簡単な文章を作ることができるよう、書く活動を意図的に設定し、技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入に「スモールトーク」を設定し、ALT と児童の間だけでなく児童と児童の間でも外国語でやり取りする習慣の定着を目指す。</li> <li>・休み時間や下校時を活用し、授業時間外にも ALT と接し、外国語に話す習慣の定着を目指す。</li> </ul>